



仙台市BOSAI-TECHイノベーション創出促進事業
実証実験サポートプログラム(2021年1期)
実証実験成果報告書

災害時物資要請

プライムバリュー株式会社

要約

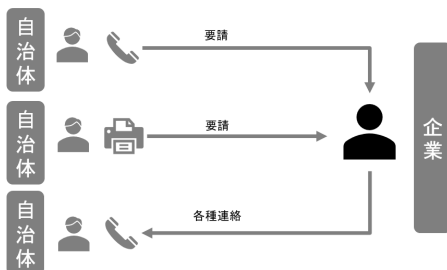
自治体と協定を結ぶ企業間で行われる物資要請のデジタル化実現の検証 プライムバリュー株式会社

1. 背景と課題

災害時の物資要請方法は10年前から変わっておらず電話・FAXによる依頼が当たり前です。

企業は複数の自治体と協定を結ぶなどして地域貢献を行っていますがアナログな環境下で緊急時に対応がひっ迫するなどしており改善が求められる領域となっています。

現状



2. 実証実験の実施内容

プロトタイプを作成しテスト利用して頂きます。

- ・モデル自治体 仙台市
- ・モデル協定事業者: COOP東北

■検証ポイント

- ・Webアプリを利用することで物資要請環境の効率化が可能か？
 - ・必要な機能は他企業・自治体にとっても有用か？
- など



3. 実証実験結果

今回の実証実験ではwebアプリで課題の改善が可能かの確認と、その課題が市場としてあるのかどうかを複数の企業・自治体にヒアリングを行いました。

結果として多くの企業・自治体が同じ課題を持っており改善したいというニーズを確認することが出来ました。

また、災害時だけでなくフェーズフリーとして活用出来ないかを一般企業にヒアリングも行い、普段利用においても、一定のニーズがあることも確認出来ました。

4. 今後の展開

2022年2月現在、リリース版の構築を行っています。4月に一部の企業・自治体にテスト利用頂くクローズドβ版をリリース致します。

そこから、さまざまな意見を取り込み6月に正式リリースを予定しています。

B-orderは災害時の物資要請改善はもちろん、企業間の取引もデジタル化出来ると考えております。

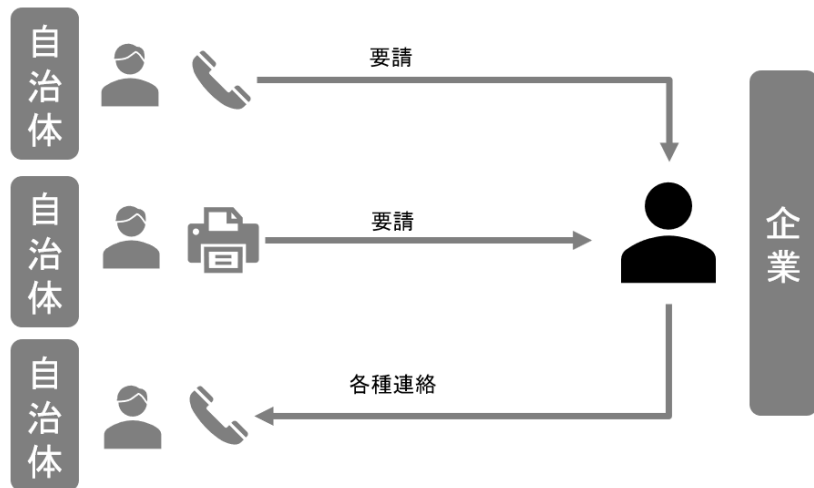
協定企業・自治体はもちろん、一般企業のDX化までサービス範囲として展開していきます。

1. 背景と課題 (1/3)

- 課題のイメージ

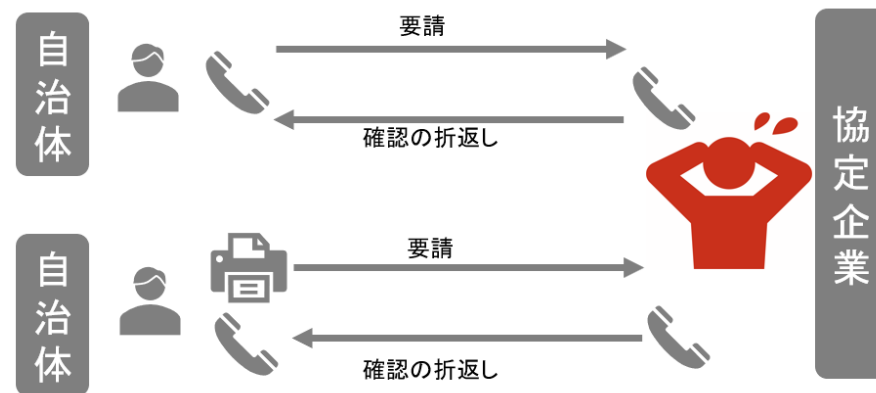
現状

災害時に行われる物資要請環境は電話やFAXが主



課題

災害時、物資要請が集中し処理が滞ります。



1. 背景と課題 (2/3)

- 自治体から一部の企業に行われる物資要請は10年前から電話やFAXのままです

その理由として

- ・ 災害時ということもあり、自治体も企業も改善の優先順位が低い
- ・ 自治体主導型では企業の課題解決にならない。
- ・ 企業ごとのデジタル化では自治体側の負担が増える

などの理由から改善が難しい領域であることが明確になりました。

1. 背景と課題 (3/3)

◆課題を解決するに当たり

弊社では課題の解決を行う上で以下の点を考えアプローチを行いました。

- ・クラウド型の要請方式で課題の解決は可能なのか？
- ・課題は多くの企業が抱えているのか？
- ・自治体側においても導入しやすい仕組みとは？
- ・マネタイズ出来るのか？

2. 実証実験の実施内容

◆プロトタイプ構築

webアプリケーションの構築

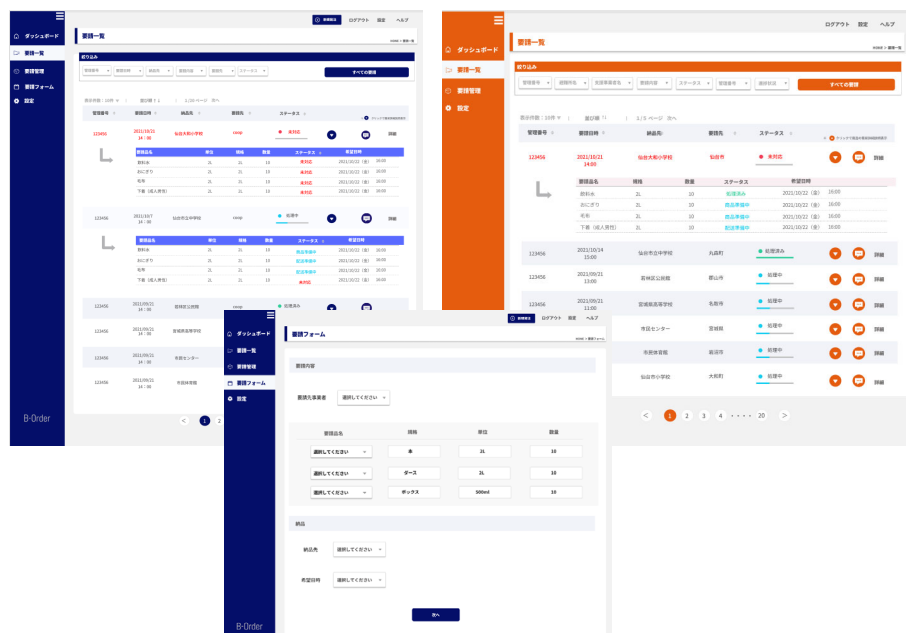
◆ヒアリング

市場調査

◆実証実験会の実施「3回」

課題を感じている方々にプロトタイプのテスト利用と市場調査の共有とレビュー

2. 実証実験の実施内容



◆プロトタイプ構築 webアプリケーションの構築

クラウド型物資要請サービス B-order プロトタイプ

- ・クラウド上に公開
- ・仙台市/COOPのみが利用できる限定版

◆意図

- ・Webアプリの使用感の確認
- ・業務フローの確認
- ・アプリイメージの共有
- ・必要機能のヒアリング

2. 実証実験の実施内容

◆ヒアリング 市場調査

①自治体ヒアリング

仙台市以外の市区町村にヒアリング。ビジネスモデルについての意見や課題感などを複数の自治体に向けて実施。

②協定企業ヒアリング

COOP以外の協定企業にヒアリング。同じ課題があるか、物資要請依頼を受ける流れはどのようなものなのかを確認。

③一般企業ヒアリング

電話やFAXで受発注を行っている企業向けにヒアリング。一般企業においても同じようなクラウド型受発注のニーズはあるかを確認。

2. 実証実験の実施内容

◆実証実験会の実施「3回」

課題を感じている方々にプロトタイプのテスト利用と市場調査の共有とレビュー



1回目: 2021年11月9日

- ・プロトタイプの紹介
- ・実際の災害を想定したプロトタイプ利用
- ・感想と追加機能の要望

2回目: 2021年12月24日

- ・進捗報告
- ・webアプリの追加機能の確認
- ・市場調査報告
- ・ビジネスモデルヒアリング

3回目: 2022年02月17日

- ・進捗・市場調査報告
- ・リリース版開発の報告と画面共有
- ・自治体のフロー確認

2. 実証実験の実施内容

◆実証実験内:災害想定

2021年11月7日 7:00

大雨による河川の氾濫が発生

・避難所:仙台市体育館

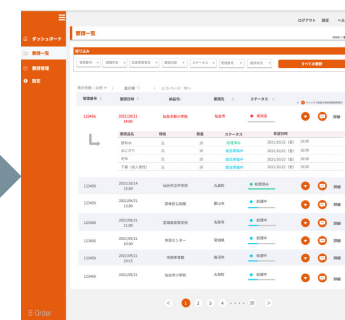
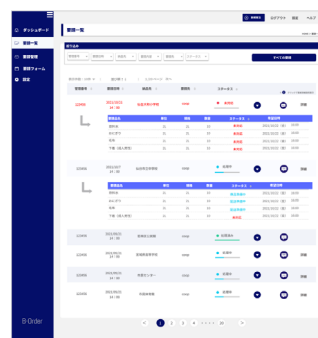
・被災者数:70名

・求められている物資:食品

食料: おにぎり

飲料水: 水

希望納期:11月9日 18:00



2. 実証実験の実施内容

◆実証実験内:災害想定

利用者レビュー



- ・自治体側も使うことで効率化出来る
- ・納品先が複雑な時ほど生きる
- ・多くの協定先が利用先として登録された状態だとありがたい。



- ・非常に使い勝手が良かった
- ・web上で要請を受けるイメージをつけることが出来た
- ・一部追加機能をお願いしたい

2. 実証実験の実施内容

レビューから実装する予定の機能

- ・商品ごとのステータス機能
- ・チャット機能
- ・各自治体の災害ポータルへのリンク
- ・その他要請品選択機能

など

3. 実証実験結果

◆実証実験の結果

実証実験では仙台市に自治体モデル、COOP東北に協定企業モデルになって頂きデジタル要請の仕組みを体感頂きました。

結果として効率化が図れ、課題解決につながるツールとして認識頂くことが出来ました。

そして、テスト版を用いて複数の自治体・企業、団体へヒアリングを行い潜在的な課題として多くの関係者が問題を抱えていることが明確になりました。

今回の実証の結果、弊社では正式にB-orderをサービスとしてリリースし日本の災害領域のイノベーションを実現していくことを決めました。

4. 今後の展開

◆B-orderを正式にリリース

今回の実証実験で課題の解決はもちろん、市場ニーズがあることも確認出来ました。
また、日本において災害環境の改善は絶対に必要です。
ビジネスモデルについては調整が必要なものの、B-orderは企業間取引においても企業の効率化に寄与出来るサービスであることが確認出来ました。

今後の流れとして

2022年4月 B-order 物資要請版 クローズドβ版 リリース

2022年6月 B-order 物資要請版 正式版リリース

2022年秋 B-order BtoB版 リリース

以上の流れで展開していきます。

弊社は日本の防災環境のアップデートのためにB-orderを一日でも早くリリースし
被災者を助ける方々の支援を行って参ります。